

シベリア日食とその前後のプロミネンス

小池田 洋子

観測機材としては、口径 5cm F10 の高橋製屈折、カメラ用三脚、テレプラス、ニコンFボティを用い、フィルム面に、直径 1cm に撮影されたものを 10cm に拡大した。東のリムに活動型の大きなものがあり、帰国後の 8 月 6 日東に大きな F 群 (図 2) が観測された。西のリムのプロミネンスは背の高いものが 2 つあり、赤道近くにあるものは、やはり黒点型のもので、出発前の 7 月 27 日の観測 (図 3) で西よりある黒点群のものと思われる。このプロミネンスは、当日 東京で観測した長谷川哲郎君の話によると、その位置には、小さなプロミネンスが観測されたとのことで、やはり変化の早いものであった。

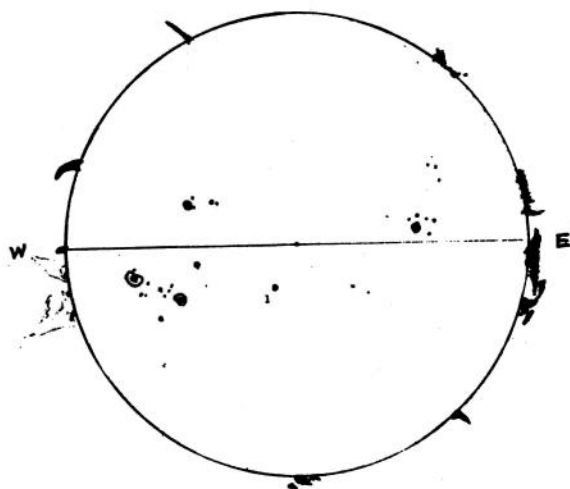


図 1 1981.7.31 12^h00^m14^s ~ 01^m10^s ソ連・タルマ

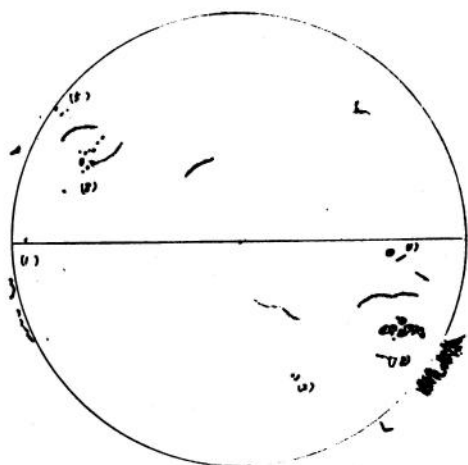


図 2 1981.8.6 10^h30^m ~ 11^h05^m

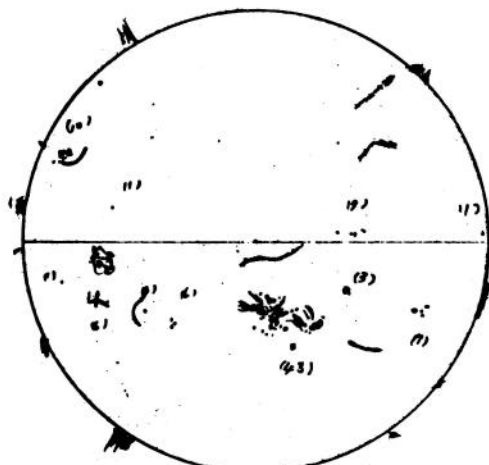


図 3 1981.7.27 9^h20^m ~ 10^h20^m

図 2・図 3 の黒点は 8cm 屈赤投影による。ダークフィラメントとリムのプロミネンスは $H\alpha$ 6563Å 0.75 巾 ディスターフィルタによるスケッチ。金沢市にて。